

経済という現実

黒田インターナショナル

黒田 毅

経済戦争はその終結でなく、未来における現実であるならば、現状において判断は必ず存在する。世界のトップ企業群とその資本力に対して、対等な自己が唯一未来を与えるならば、選択は未来を創造する唯一の現実である。

その先端技術とシステムへの到達が、唯一未来への参加を得ることは、将来における経済の崩壊が、台湾への侵攻や、財政の破綻などにおいて、予測される中、判断は要求される。自由貿易システムと自由経済システムは、誰に勝利を与えるかは、現状認識において予測できるものである。

企業防衛は、自己製品と市場における安定性をそのマーケティングにおいて有する必要がある、これら市場の見える化や、数値データの解析における企業経営への転換は必要とされるものである。

政治という基盤が、企業の基盤であることは、国家という保護を企業が要求することは、自由主義陣営における確固とした真実であり、未来という現実には必ず企業判断を要求するものである。

これらは高い効率性と先端システムの構築における企業転換はその早急な必要性を有し、市場の確保は、企業の経営者において、その判断を求められるものである。

世界の先端性は、未来を有するのである。ゆえに企業の創造性は未来の創造を有するのである。

資本力は、資本主義における正しい物差しであり、株式市場の崩壊は、ブラックマンデーという現実を未来に有することを予測される中、その運用を明確に新たに要求される。

技術は必ずその要求を有するのであり、開発における基礎研究はその飛躍を有し、国家や社会という現実の転換を可能とするのである。

これらすべての基礎研究が、西洋陣営から与えられることは、彼らとその所有権の回復を求めることは必ず想像できるものである。

世界の巨大な資本は、未来の所有を要求するとき、それに対峙することは、同党の資本力を要求されるのである。

企業の独立性は、財政の健全性と資本力、技術と製品において、自由市場と市場のグローバル化において、必ず需要を有することが可能であり、これら将来における変化へ、技術とシステムにおいてプレゼンスを構築することは可能なのである。

これら新たな経済における現実には大幅な変化を予測させ、これらは明らかに経済戦争という現実を有するのである。

経済戦争は、自国の経済安全保障を要求し、経済を制することは、世界を制することという真実は正しいのである。豊かさは必ず勝利を与えるのである。